

明日から使える Diagnostic Stewardship : 市中病院での実践例

座長



笠原 敬 先生

奈良県立医科大学 感染症内科学講座

演者



北川 大輔 先生

地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 臨床検査部

演題1 Diagnostic Stewardship の効果的運用に向けた
多職種連携とコミュニケーションの重要性

演者



藤田 佳奈 先生

市立旭川病院 中央検査科

演題2 持続可能かつ一歩踏み込んだ DS へ：
ミドルウェア活用例

日時

2025年1月25日(土) 11:55 ~ 12:45

会場

第2会場 (名古屋国際会議場1号館4階 レセプションホール)
〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

開催形式

現地開催

ランチョンセミナーは、事前申込制となります。
学会 HP の「ランチョンセミナー」ページよりお申込みください。

<https://www.congre.co.jp/jscm2025/registration/index.html>



明日から使える Diagnostic Stewardship : 市中病院での実践例

演者

北川 大輔 先生

地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 臨床検査部

演題1

Diagnostic Stewardship の効果的運用に向けた 多職種連携とコミュニケーションの重要性

抄録

Diagnostic Stewardship (DS) は、臨床における検査の適切な利用を促進し、患者の診断精度と治療効果を向上させる重要な取り組みである。特に血液培養検査において、検査前から検査後に至るまでの適切な関与は、敗血症診療の効果を高める機会を提供する。質の高いDSの実現には、血液培養の質的脆弱性を理解し、適切な血液量や採血技術を用いた採取教育、迅速な結果提供、検査結果が治療に反映されるための情報提供が不可欠である。これには、Antimicrobial Stewardship (AS) との連携により、適切な抗菌薬選択のための支援が含まれる。さらに、検査に関わるデータのモニタリングとフィードバックも、効果的なDSを実現するために重要な要素である。

しかし、これらの取り組みを効果的に実施し、臨床現場から信頼を得るためには、日常的な診療科や他職種との密接なコミュニケーションが欠かせない。当センターの微生物検査室では、定期的に診療科のカンファレンスに参加し、微生物検査に関する情報を提供している。これには、自施設のデータや最新のエビデンスに基づいた情報を共有し、診療科の理解を深める活動が含まれる。また、診療科と協力してデータの検証や論文作成を行い、エビデンス構築に貢献している。こうした活動は、日常的な情報共有を強化し、より効果的なDSを実現するための基盤となりうる。

本セッションでは、血液培養検査におけるDSの実践について概説するとともに、これらを達成するために必要な他職種とのコミュニケーションについても言及する。DSの効果的な運用には、専門職間の協力が不可欠であり、継続的な情報共有とフィードバックがその成功を左右する重要な要素となる。

演者

藤田 佳奈 先生

市立旭川病院 中央検査科

演題2

持続可能かつ一歩踏み込んだDSへ：ミドルウェア活用例

抄録

Diagnostic Stewardship (DS) の実践には、医師、看護師、さらに看護助手など多部門の医療従事者の協力や理解を得ることが不可欠であり、特に微生物検査に携わる臨床検査技師は重要な役割を担っている。しかしながら限られた人的要件のみで運用されている微生物検査室は、日常の検査業務のかたわら ICT や AST の活動をこなしている。それに加えて、新たにDSを実践するためには、更に時間と労力を要すると考えられ、検査室にとって日常業務の効率化は必須課題である。特に血液培養検査において適切な検査前プロセスのための職員教育は必須事項である。定期的に施設全体、あるいは病棟単位で検査前プロセスのモニタリングデータを抽出し、状況を評価し、その結果を元に改善内容をフィードバックする。介入後に適正化の達成状況を再評価し、再度フィードバックを行う。これらは一時的な改善のためではなく、継続して実施できるように、繰り返し行うことが重要である。

当院は2023年12月にビオメリュー・ジャパン株式会社のミドルウェア MAESTRIA と CLARION Lab Analytics を導入した。バクテアラート VIRTUO、バイテック MS PRIME およびバイテック 2 ブルー、そして細菌検査システムと接続し、患者情報や検査結果をミドルウェア内に集約するようなデータ管理仕様を構築した。ミドルウェア導入前は、細菌検査システムや分析装置に保存されているデータを各々から抽出し、Excel などの表計算ソフトで集計と加工し可視化する必要があった。導入後は、ミドルウェアに情報が集約され、任意の条件を選択するだけで、簡単にかつ正確にデータが抽出され資料作成が可能となり、データの可視化が容易になった。ミドルウェアの積極的な活用は、当院も含めこれからDSを始める、すでにDSに取り組まれている施設の微生物検査室の業務効率化を図り、臨床検査技師の働き方改革の一助になることが期待されている。

ビオメリュー・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目17番7号赤坂溜池タワー2階
臨床営業本部 Tel : 03 - 6731 - 9000

www.biomerieux.co.jp